

島田市

地形概況

大井川左岸の伊久美川・相賀谷川・大津谷川流域の丘陵と山地が広く、谷底低地をもつ。大井川扇状地の扇頂部も礫質低地をもち、旧河道も分布する。南部は牧の原台地の岡田原・色尾段丘からなる。大井川は広い河床を網状に流れる。

地質概況

北部山地は三倉層群の泥岩・泥岩砂岩互層・瀬戸川層群の頁岩砂岩互層・玄武岩質火砕岩などからなる。東部山地は大井川層群の頁岩・砂岩が分布する。大井川右岸の牧の原台地の砂礫層は大井川層群・相良層群を基盤とする。扇状地は厚い砂礫層が堆積する。

気象概況

年平均気温は推定 15.0℃、年平均降水量が 2,271mm(中央町)。平坦地と山間地との温度差が大きく、冬季は空っ風が台地から吹き降る。降雨は県内の平均よりやや少なく、春から夏季(4月から8月)にかけて全降水量の約 50%が降る。

災害事例 地震

- 1944年12月7日(昭和19年) 東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害が大きかった。当地では震度5程度であった。
- 1857年7月14日(安政4年) M=6 1/4
この地震で所々家がつぶれ、8人の死者が出た。地割れから泥を噴出し柱の根本が動きまた傾いた家があった。
- 1854年12月23日(安政元年) 安政東海地震 M=8.4
全県下大被害があったが、島田宿では大井大明神の石鳥居が崩壊、また家が7戸潰れた。六合村内では潰家18戸…所々に亀裂を生じて泥土を噴出した。東光寺山方面では山岳の崩壊・陥没など随所に見受けられた。大津村千葉区でも2戸3棟が倒壊した。大長村でも数戸倒壊し伊太村八倉山の西寄山腹へ大きな亀裂を生じた。震度は六合で6、島田宿・東光寺・大津・大長で5~6、鍋島で5、伊久身で4などである。
- 1707年10月28日(宝永4年) 宝永地震 M=8.4
全県下に被害があったが、島田宿でも大部分が倒潰した。大津でも十数戸倒潰し、半潰家屋が相当あった。震度は島田で6であった。

災害事例 津波

- 1982年9月12日(昭和57年) 台風18号
全県下風水害で、当地は全壊3戸、半壊4戸、床上浸水416戸、床下浸水975戸などであった。
- 1968年8月29日(昭和43年) 台風10号
全県下風水害で、島田の1時間最大雨量は55mmに達した(29日2時~3時)。堤防決壊1箇所、山崩れ20箇所、ほか床下浸水・田畑冠水などがあった。

- 1944年8月7日（昭和19年）
6日夜半から、風雨強く、島田の雨量298mmであった。
- 1910年8月8日（明治43年）
全県下特に中・西部で被害。島田では日雨量8日380mm、9日297mmに達した。被害は負傷者1人、全壊10戸、半壊84戸、流失2戸、浸水502戸、流失埋没田畑185町歩、堤防決壊1,413間、道路破損流失1,295間などである。
- 1828年8月10日（文政11年）
朝からの雨は昼から夜迄豪雨となり大井川出水、島田町横井下から上泉村地先に至る堤防を悉く決壊した。浸水した各村は田畑は残らず荒地となり、家屋流失・溺死人が続出した。
- 1813年7月27日（文化10年）
大井川洪水になり飯渕などで堤防66間程が決壊した。そのため家屋が流失し、人畜が溺死した。
- 1804年9月30日（文化元年）
降りつづいた雨のため大洪水となり、源助新田から善左衛門新田をへて上泉にいたる間の堤防がことごとく破壊された。善左衛門新田は流失家屋32戸、罹災民142人に達し、付近の田畑は全部流失した。前記3か村は水が床上3、4寸から4、5尺になり、「子年の大川成」として凄惨のきわみを伝えている。この時は神座村にも相当の水害があった。
- 1738年9月14日（元文3年）
この年6月から10月にかけて、たびたび出水があった。
- 1738年6月25日（元文3年）
大井川大日地先から切込、2日後には川尻が切込、つづいてさらに7日後、以上の村中本通が押通り、大日堤は残らず失い、この村中は家屋全部流失、高島村も同様にて田畑家屋敷とも流亡、川尻は田畑約400石地を失ったのみで人家は無事。
- 1680年7月27日（延宝8年）
大風雨洪水、床上2、3尺余浸水して、押し流された家もあった。村高1,500石余のところ流失して50石余のみ残った。

災害事例 豪雨

- 1959年8月26日（昭和34年）
島田で豪雨あり、日雨量は376mmに達した。諸河川の堤防決壊し、家屋・田畑が冠水した。被害は負傷者3人、行方不明1人、全壊8戸、半壊14戸、流失8戸、床上浸水3,000戸、床下浸水6,000戸に及んだ。

災害事例 早魃

- 1926（大正15年）
県下全般に早魃で、農作物の被害が大きかった。島田の8月の雨量は16mmで、平

年より 273mm も少なかった。

- 1893 (明治 26 年)

7、8 両月は未曾有の旱魃で、農作物は大減収であった。

- 1852 (嘉永 5 年)

この年から 3 年間、「未曾有の旱天」が打続いた。長い時は 4 か月の間一粒の降雨さえなく用水路は悉く涸渴した。大井川の引水に依る僅かの地を除くほか田畑の作物は殆ど枯死した。

災害事例 冷害

- 1836 (天保 7 年)

初秋から雨つづきで冷害甚だしく当地方でも収穫良の場所で坪粃 8 合しかとれず、秋の終りから野山に草の根、木の皮を求めて飢を凌いだといわれる。